

## 平成31年度 事業計画書

(平成31年4月1日 ～ 平成32年3月31日)

本年も社会的養育を必要とする子ども達の悲しいニュースが後を絶たない。

養育放棄の親の社会的問題、心身の虐待から最悪のケースを向かえた事件、施設出身者の暗い闇の部分から起きた取り返しのつかない事件、これらを繰り返さないためにも児童福祉法等の法整備、児童福祉機関の切れ目のない支援制度、保育園、学校の子どものとの接点の一番長い教職員の監護による未然の防止活動等を切に願う。

一方、困難を抱えた子ども達の自立奨学支援を目的とした本財団の任務も忘れてはならない。子ども達の安全を図り、将来の夢を守り、多くの市民に現状を知らせ、応援を仰ぐため、本年度の事業計画を次に策定した。

### 1. 自立奨学支援事業（事業費占率 86%）

支援を求める応募者数も、過去3年平均で605人と多くの子ども達が本財団の支援制度に期待している実態より、過去の実績並みの予算を確保したい。また、社会人となった子ども達の生活マニュアルである「未来のつばさナビ」は継続して贈呈できるように予算化した。また、3年目となる2018年度実施の申請時「アンケート」の集計を継続し、支援対象の子どもらの本質を理解し、当支援制度の改善に取り組む。広報活動の一環として実施しているメールマガジン「つばさニュース」を活用し、自立準備から自立後の児童を繋ぐコンテンツの充実を図り支援金以外でもサポートをしていく。

### 2. 団体向け支援事業（事業費占率 10%）

6年目を迎え、事業目的の「子どもの権利擁護と自立支援に最善の利益を与える活動」に支援を行う。支援金額単位は30万円、支援件数は12件を保ち引き続き地域の少額な活動を対象とする特徴を出す。また、プロジェクトの応募状況や支援結果をまとめ広報誌およびメールマガジンにて紹介する。

### 3. 広報活動事業（事業費占率 3%）

広報誌「未来のつばさ」を年2回発行する。発行先は児童養護施設等、地方関係自治体、児童相談所、社会福祉協議会および寄付者あて各3700部を予算計上する。メールマガジン（つばさニュース）は月に1回のペースで配信を継続し、会員をチラシ配布等により増やし財団事業をアピールする。また広報活動として今年度も引き続き事業と寄付についてのご案内パンフレット2000部を、子どもの虹情報研修センターで行われるすべての虐待対応研修にて配布する。

#### 4. 組織運営

##### (1) 常設委員会開催予定

開催月	委員会名称	実施事項
5月	会計監査会 理事会	平成30年度決算関係資料監査 平成30年度事業報告・決算(案)審議
6月	評議員会 理事会	平成30年度事業報告・決算承認 平成31年度選出評議員・役員の選任 理事長の選定決議 平成31年度選考委員および諮問委員の選出決議 プロジェクト支援事業前期最終選考決議
10月	選考委員会	2019年度自立奨学支援制度の選考方法の審議
12月	理事会	プロジェクト支援事業後期最終選考決議
1月	審査会	2019年度自立奨学支援応募の審査
2月	選考委員会 諮問委員会	2019年度自立奨学支援の最終選考 平成32年度実施事業の諮問と意見聴取
3月	理事会	平成32年度事業計画及び収支予算書の承認

##### (2) 各委員会の開催

委員会規程に基づき、財団運営に多くの財団メンバーの意見を反映させるため、今年度は①事業企画・運営委員会、②規程・実施要項検討委員会の設置を計画する。

##### (3) ボランティア体制の推進

昨年度は選考委員会了承のもと、自立奨学事業の審査委員としてBチームは延べ55名、Cチームは楽天生命職員23名のボランティアに選考を行っていただいた。本年も選考ボランティアを多く求め社会的養護環境下の子供たちの実態を知ってもらいたい、また財団の行う事業を手伝うボランティアを求める。